



鹿児島県 児童クラブ連絡協議会

連絡先

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久2105-1

TEL/FAX 0995-45-7800

<http://m-jidouclub.com/krijidouren-index.htm>



携帯サイトです。ブック
マークに登録を！

ニュース

No. 25

2011年7月5日

6月19日、県連結成5周年一総会 記念講演&シンポジウムに130名の参加 成功裏に開催！



2007年6月に結成してから5年目を迎えた県連総会は、6月19日、鹿児島市の「アーバンポートホテル鹿児島」にて、加盟25クラブ69名の参加のもと開催しました。

北薩と南薩地区に地域連協することを今年度の重点課題として決定しました。

■5周年記念講演会

村山士郎先生～聞いてよ！こころのつぶやきと叫び～

記念講演会は、県内の40クラブ、4行政、10名の県市議を含む130名の参加がありました。

村山先生の講演では、「ことばの豊かさ」が生活の中で直接・間接体験において無限の広がりを持つこと。学童保育では現実の子どもから出発し、あるがママの姿を受けとめることの必要性和「できない」、他者の評価をおそれて子どもが本音を出不ない状況からときはなてる場所であること、などユーモアを交えての講演にみんな聴き入っていました。

(アンケートは次ページにあります)

■ブックレット発刊 第3回学童保育シンポジウム

6月19日発行の鹿児島県学童白書『かごしまの学童ほいく』(ブックレット)から見えてくる課題と題して、ブックレット編集にたずさわった編集委員をパネラーに開催しました。

県内の学童の現状と子ども、保護者、指導員の思いがこもったブックレットです。細かいデータが網羅されています。

まだ不足している鹿児島の学童保育の実態も明らかになりました。

●川野恭司さん(鹿児島子ども研究センター)

指導員の身分の不安定さ、社会的な貧困が進んでいる。縦割り行政の壁、行政と学校との連携の必要性を提起。

●小牧利明さん(黒木わいわいクラブ)

過疎対策として、父親が先頭に立ち児童クラブを立ち上げ、その資金づくりに子どもたちと一緒にサツマイモを植え焼酎を作った。

●田間美沙緒さん(青葉児童クラブ指導員)

指導員の仕事はまだ分かってもらえていない。自立した職業として捉えられていない現状…でもやりがいのある仕事だ!!

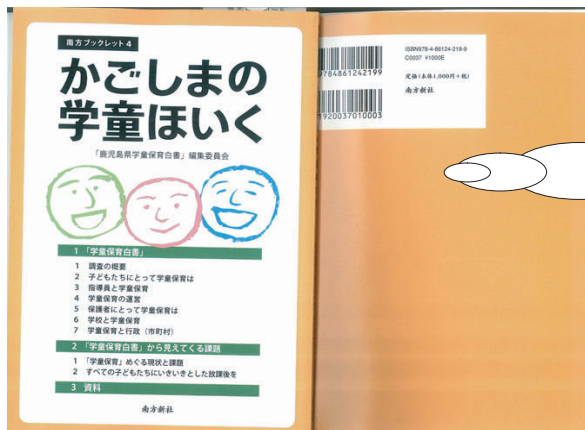
シンポジウム後にブックレット発刊を記念してのレセプションではブックレット編集時のエピソードが語られました。

ブックレット

『かごしまの学童ほいく』ができました！

定価：1000円 発行：南方新社 A5版86ページ

編者：「鹿児島県学童保育白書」編集委員会



これを読めば、鹿児島の学童保育が分かる！

鹿児島県児童クラブ連絡会にて取り扱っています！！

お求めは、県連事務局へ！！

TEL/FAX 0995-45-7800

鹿児島での学童保育の成り立ちと現状がどうなっているか、また市町村における子育て支援施策内容等の実情を把握し、すべての子どもが健やかに育つ権利を保障するための環境整備の一助となればとの思いから、この度のブックレット『かごしまの学童ほいく』となりました。

子どもの学童への思い、保護者の願いは、そして指導員は学童保育にどう向かい合っているか、設置者、行政、学校はどんな関わりをしているのか…データをもとに鹿児島の学童保育の現状と課題が見えてきます。

学童保育がもっと充実していくための提言と、現場での実践をコラムで一地域と性を活かした学童、指導員の仕事、しょうがい児学童の現状、小規模学童の思いなど……

ぜひ、ご購入下さい！(T)

2011 年鹿児島県児童クラブ連絡協議会 5 周年企画 記念講演会&第 3 回シンポジウム アンケート
記念講演会とシンポジウム参加いただいた 38 名の方から、アンケートに回答をいただきました。

(指導員 25 名、保護者 2 名、設置者 5 名、行政 2 名、その他 4 名)

■「今日の子育てと学童保育の役割～聞いてよ！こころのつぶやきと叫び～」

講 師：村山 士郎さん（大東文化大学）

■『「かごしまの学童ほいく」から見てくる課題～すべての子どもたちにいきいきとした放課後を！～』
元気をいただく感想文をたくさんありがとうございました。

■記念講演会

- ・学童保育に 10 年たずさわって、今日のおはなしは深くうなずけるお話がたくさんあり、孫を持つ身にもなり、さらにことばの大切さを感じる今頃です。学校とはちがって学童では、日頃子どもが経験（体験）できないことなどをたくさんとりいれていきたいものだと思うことでした。
- ・わかりやすくお話しいただけ、自分の中にスッと入ってくる内容でした。たくさんの経験ができ、関わりあのできる学童でありたいなあ強く思いました。
- ・ユーモアを交えてわかりやすい講演でした。「ことば育ち」の大切さがよくわかりました。
- ・ことばの深み、豊かさ、実体験の中から発せられことばの必要性等、あらためて感じることでした。
- ・静かな語り方で、とても大切なことを教えていただきました。特に、豊かなことばについて、生活する中で体験することで豊に育つこと、そのための大人のかかわり方、考えさせられました。実生活でも、一つの言葉に対して思うことが、自分の体験によって分らないことがあると、実感させられる場面（お孫さん、学生さんの例でも）うなずくことでした。ユーモアある中で“ハッ”とさせられる先生の講義、人気だろうと思いました。
- ・村山先生の温かなお人柄のにじみ出たとても楽しい講演会でした。
- ・ユーモアもあり、あっという間の 1 時間 30 分でした。言葉の大切さを痛感しました。
- ・生活体験のお話、参考にさせていただきます。
- ・楽しくお話を聞くことができました。これからの子どもたちへのかかわり方を考えていきたいと思えます。
- ・日頃の子供たちの様子が浮かんできました。「豊かなことば育ちが心と学力の基礎」を読んで、復習しつつ今後に生かしていきたいと思えます。
- ・村山先生の「経験」から出てくる物事の広がり幅の大きさのお話を聞くことができ、明日からの現場での活動にも生かして行こうと思えます。
- ・豊かな言葉は生活体験から育つことの大切さを知りました。
- ・子どもの成長の変化、生活の変化等、考えさせられました。言葉を大切にしていきたいです。
- ・「生活づくり」ということ、生活体験によりことばの意味が何倍にも広がっていくということ、大きな示唆をいただきました。
- ・また改めて考えなおさなければいけないこともあり、話をうかがうことができ、自分自身にとってもよかったと思いました。
- ・現在の子供たちをとりまく状況、またこれから先生となっていく、学生さんたちの感性というか、大切にしていかなければならない部分など、危機感を感じることでした。
- ・言葉の使い方、意味など指導員として意識して使いたい。とてもためになりました。
- ・「うんうん」とうなずくことが多く、気づいているようで気づいていないことなどたくさん学びました。
- ・とてもわかりやすいお話でした。子供たちの根っここの大切なことをあらためて感じることでした。
- ・ことばの大切さというものを学びました。母語体験や共感体験によりことばが豊になり、学力も上がっていくということを知り、自分の学童でももっともっと色々な事を体験させてあげて、できるできないで評価せず、子供たち本来の姿というのを見ていってあげたいなと思いました。とても面白い講演でした。
- ・楽しい講話の中にも、子供のことばや詩など実体験を交えて、参考になるお話をたくさん聞けて良かったと思います。
- ・学生の頃を思い出しました。子育てはだいぶ前に終わり、初めて児童クラブでの仕事に入り、どうすればどの様な指導が必要かと思っていましたが、今日の講演を聞いて安心しました。学童保育の役割は？とか、自分で何回も考えたりすることがうそのようです。また、先生の講演を聞いて、これから指導員として頑張りたいと思います。
- ・楽しい中にも、今あるべき姿を話してくださり、今後の学童の運営に活かしていければと思います。
- ・ユーモアを交えた講演で楽しく聞かせていただきましたが、もう少し内容を学童保育の役割の部分詳しくお聴きしたかったです。



【村山士郎先生の著書 とり扱っています！】

◆豊かなことば育ちが心と学力の基礎

本の泉社（2009/06/20 出版）1000円

◆聞いてよ！こころのつぶやきと叫び

一統・子どもと読みたい100の児童詩

本の泉社（2009/07/15 出版）1000円

お求めは、県連事務局へ！

■シンポジウム

- ・黒木わいわいクラブ、興味を持っていました。ぜひ、一度行きたかったが、今日のパネラーとしてご意見、発表の機会があり、とても来て良かったです。私も頑張って、若い人たちに応援していきます。
- ・それぞれの立場から発表とても良かったと思います。これからますます学童保育の大切さ（幼児教育）共に感じました。5年目ではありますが、一步一步着実な歩みになればいいなと思うことでした。
- ・我が学童も年々利用者が増え、その影響で「しっかの子どもと関わっていないのでは？」という想いを抱いています。ブックレットを読んで、現状を把握し、今後の保育につなげていきたいと思いました。
- ・他の学童クラブの様子が一部でしたが良かったので良かったです。
- ・まだまだ入りたくても入れない地域がある反面、福祉施設や幼稚園、保育園等が学童を設置し、共存する難しさも見えてきています。今後、子どもにとって豊かな放課後を過ごせる場所として、考えていかなければと思います。
- ・県内の学童の実態、そこを生活する場とする子どもたちの思い、資金づくりをした父親たちの実践について、よく理解できる報告をしていただいたと思いました。10年以上勤務の方から「家族構成の変化」が大きく、子どもたちの生活背景の変化があること、そのことに気づいて、子どもの成長を見守る手だて、行政へ訴えること等、考えさせられることは、まだ3年目の自分自身もうなずき、一人ひとりの子どもたちが求める場に対応できたらと、努力しつつそれができないことを反省することもしばしば…。
- ・指導の内容、身分の確立等課題がまだまだある。
- ・各クラブでの問題などが共有できることは良いことだと思います。これからもこういった場に参加できたらと思います。
- ・短い時間の中で、継続的に指導していく、日常の忙しい中での指導を振り返ることができました。
- ・いろいろな問題がありますが、事務局を中心に研修体制も整い、学ぶ機会もたくさんありますので、学童が子どもにとっても保護者にとっても「心のオアシス」になるよう、指導員一同、力を合わせて頑張りたいと思いました。
- ・指導員の仕事を改めて考える良い機会となりました。子どもたちにとって必要な指導員になれているかなと思うところでした。
- ・学童保育を地域によっていろいろ工夫されていることを知りました。
- ・なかなか現状は厳しいですが、子ども一人ひとりが安心して楽しく過ごせるように、学童保育への理解を深めていきたいと思います。
- ・意義深いお話の内容に、これからも頑張っていこう！という志を新たにしました。
- ・少し、時間が短かったです。せっかくの機会でしたので、もったいない気がしました。時間があればもっと質問したいこともありました。
- ・いろいろな学童のかたちがあるのだと感じました。
- ・他のクラブの状況が分かり良かった。
- ・さまざまな課題があり、考えさせられました。特に、指導員の立場や意識、社会的立場というものが気になりました。

自分たちの意識の中で、変えていける部分もあるし、同じような考えの話を聞けてとても良かったと思います。指導員の話をもっと聞きたかったです。

- ・まだ開設して2年目のクラブなので、内容をよく読んで今後の参考にしていきたいと思います。
- ・鹿児島県の全体の学童保育が聞けて良かったと思う。成功例など子どもとのかかわり方などいろいろと聞けて良かったと思う。子どもが好きな遊びを見守ることが大切だとわかり、本当にうれしく思います。他の児童クラブの話が聞けて良かったです。
- ・課題は山積ですが、一つひとつクリアしながら、一緒に頑張っていかせて下さい。
- ・まだまだ運営面等が厳しく、国や市町村行政の援助が急務であると分かりました。
- ・ブックレットもすごくよくまとめられ、事務局や編集をして下さった先生方のご苦労がにじみ出ているようでした。パネラーの方もベテラン揃いで実のあるシンポジウムだったと思いますし、今後の子どもたちとの関わりを再度考え直すきっかけにしたいです。
- ・現場の指導員の先生方の話には、説得力があります。うなずくところが多かったです。

■今後どんな研修会に参加したいか

- ・前回（加治木）のように、各児童クラブでの意見交換も欲しいです。
- ・障害をもった子との関わり方等についての研修会に参加したいです。
- ・設置者、運営委員長だけの運営等の研修会があれば、いつも考えています。
- ・子どものしつけ、しかり方や遊び方について等。
- ・子どもの遊びについて学びたい。遊び方など。
- ・手作りおもちゃ、伝承遊びを体験してみたいです。
- ・しょうがい児の保育についての研修会に参加したいと思います。
- ・しょうがい児への接し方、遊びに関するもの。
- ・障害児保育。
- ・トラブルシューティング
- ・経営について
- ・学童でできる遊びなどの研修会に参加したい。
- ・しょうがい児についての研修を受けたい。
- ・遊びについての研修会があればいいと思う。
- ・実状にあった現場の問題と対策例など。各種補助金に対する講習。
- ・互いにざっくばらんな話ができる研修会。



基本制度ワーキングチームが「中間まとめ案」を提案 「子ども・子育て新システム」 どうなる学童保育（放課後児童クラブ）

「子ども・子育て新システム」の基本制度設計に向けた中間報告が出されています。2013年度に向けて動きつつあります。

■6月16日、「子ども・子育て新システム検討会議」基本制度ワーキングチームが開かれました。

事務局（内閣府）から「子ども・子育て新システムに関する中間とりまとめ（案）」が提案され、審議されています。

今後は、成文化した「中間まとめ（案）」を作成し、再度、基本制度ワーキングチームで検討していくこととなるということです。

◆中間まとめ（案）は、

○ 本ワーキングチームとしては、今回、中間的に議論をとりまとめたが、社会保障と税の一体改革の工程表（案）にあるように、税制抜本改革とともに法案提出ができるよう、

①国、地方及び事業主の負担の在り方、利用者負担の在り方、既存の財政措置との関係など費用負担の在り方？国における所管の在り方、

②ワークライフバランスの在り方、

③国の基準と地方の裁量の関係など地域の実情に応じた

給付・事業の提供のための仕組みの在り方、など残された課題について、できる限り速やかに検討を再開したい。また、検討に当たっては、実施主体である地方公共団体など関係者と十分に意見交換を行うこととしたい。政府においても地方公共団体など関係者の理解を得た上で、成案化されたい。

ということで、今後、まだ残された課題について検討を進めることとしています。

●学童保育（放課後児童クラブ）については、次のような内容が提案されました。

・放課後児童クラブは、「制度案要綱」では「放課後児童給付（仮称）」となっていたが、「給付」ではなく、「市町村事業」として位置づけた。

（そのため事業者の「指定制」などではなく、「市町村が地域のニーズ調査等に基づき実施する旨を法律上明記」するとしています）

・放課後児童クラブは、「子ども・子育て支援事業（仮称）」（市町村事業）として位置づけて、以下の点をあげています。

<放課後児童クラブ>

○ 小学校4年生以上も対象となることを明記、4年生以上のニーズも踏まえた基盤整備を行う。

○ 放課後児童クラブについては、市町村が地域のニーズ調査等に基づき実施する旨を法律上明記。

※市町村新システム事業計画（仮称）で需要の見込み、見込量の確保策を記載し、提供体制を計画的に整備。

○ 質を確保する観点から、人員配置、施設、開所日数・時間などについて、国は一律の基準を設定。

※児童福祉法に位置づけることを検討

○ 利用手続は市町村が定める。ただし、確実な利用を確保するため、市町村は、利用状況を随時把握し（事業者は市町村に状況報告）、利用についてのあっせん、調整を行うことを法律に明記。

児童福祉法を改正し、市町村の実施責任を明記することや最低基準を明記することが検討するという内容です。

また、放課後子ども教室と学童保育との「一体化」に関わるものは出されていません。

積み残された課題にもあるように、国や市町村や保護者の費用負担のあり方、国の基準と市町村の裁量幅などは、これから検討していくとなっています。

「安心こども基金」で土日開設補助

電力需給対策として平日休業、日曜・祝日の開業する企業で働く保護者のために、7月から9月までの限定3か月間の日曜・祝日に学童保育を実施する場合に、通常の学童保育の運営費補助金とは別の「特別事業」として「安心こども基金」から補助金が出ることになりました。

6月22日に厚生労働省から自治体に通知とQ&Aが出されています。

補助単価、実施要綱はまだ示されておらず、自治体には前振りとして「補助金がありますよ」と連絡が行ったというもので、来週前半に補助単価や実施要綱が示され、申請の作業が始まります。

保育所では、保護者が仕事が休みの水曜日は子どもも休ませ、日曜日に登園を「振り替える」ということなので追加の保育料はとらないとしています。が、**学童保育については通知では「新たに保護者負担を徴収しないこと」と書いてありますが、それはまだ決まっていないとのことです。**

ただ、国としては「震災、原発事故が原因の電力需給対策なので、保護者に新たな負担を求めるのはしない」と考えているが、学童保育の場合、保育料の金額や規定も各市町村や施設によってバラバラで、国として「徴収しない」とは言えないということがあるので困っているとのことです。

「電力時給対策に伴う企業の就業時間等の変更に対応した児童の居場所づくりのための特別事業の実施について」

日曜日に学童保育を開所した場合に、指導員の給与を払う必要がありますが、その場合の補助金は現在の補助単価で計算するとたいへん少ないものになってしまいます。「保育料負担は徴収しない」と国が一方向的に決めてしまうと、運営者の持ち出しになってしまうこととなります。

国は「保育料負担も含めた補助単価を考えている」としていますが、仮に通常の補助単価の二倍の単価となっても（国の通常の補助金は、半分は保護者負担を見込んで決めた単価となっています）、実際は国の補助単価の二倍で運営できているわけではなく、市町村の上乗せや保育料の上乗せがないとできませんから、その分は運営者の持ち出しになってしまいます。

「保護者に追加負担させない」と考えるのであれば、当然、「運営者にも追加負担はさせない」という考えで補助単価を決めてほしいと要望することが必要です。

皆さんの市町村の動き、「こんなことを言われた」「こんな問題がある」「こんな場合はどうなるのか」など、休日・祝日開所の動向と併せて、お知らせ下さい。